

[畜産部門 平成31年度 普及する技術]

事 項 名	フェストロリウムの奨励品種「那系1号」の特性		
ね ら い	本県に適するフェストロリウムの品種を選定するため、生育特性及び生産性を調査した結果、「那系1号」が標準品種と比較して草丈、永続性及び収量性に優れることが明らかとなり、種子が流通したことから奨励品種として普及に移す。		
普 及 する 内容	<p>1 来歴</p> <p>「那系1号」は農研機構畜産研究部門において、越夏性に優れる国内育成ライグラス品種・系統（ペレニアルライグラス及びイタリアンライグラス）と耐寒性に優れるメドウフェスク品種を交配して作出した属間雑種を元に、その後代から越夏性などの形質で集団選抜した四倍体フェストロリウムである。種子は平成29年から各種苗会社等が販売している。</p> <p>2 主な特性（標準品種「バーフェスト」との比較）</p> <p>(1) 発芽の良否及び早春の草勢は優れる。</p> <p>(2) 早春及び秋の草勢は優れる。</p> <p>(3) 出穂始日は5日早い。</p> <p>(4) 各番草とも草丈は高く、年間乾物収量も高い。</p> <p>(5) 越夏性はやや優れる。秋の被度はやや劣る。</p> <p>(6) 利用2年目及び3年目での減収の程度が小さく、永続性が高い。</p>		
期待される 効 果	耐湿性に優れ、排水不良な転作田においても安定多収生産が期待できる。		
普 及 上 の 注 意 事 項	耐湿性に優れる特性があるが、2・3番草の草勢維持のためには1番草収穫時にトラクターの轍ができない程度の土壤水分条件が望まれる。		
問い合わせ先 (電話番号)	畜産研究所 酪農飼料環境部 (0175-64-2791)	対 象 地 域 及び経営体	県下全域の畜産 経営体
発表文献等	なし		

【根拠となった主要な試験結果】

表1 「那系1号」の生育特性 (平成21～24年 青森畜産研)

形質	品種名		備考 (評点法等)
	那系1号	バーフェスト (標準品種)	
発芽の良否	8.0	7.0	1 (極不良) ~ 9 (極良)
定着時の草勢	7.3	7.0	1 (極不良) ~ 9 (極良)
越冬性	4.1	4.3	1 (極不良) ~ 9 (極良)
早春の草勢	7.3	5.6	1 (極不良) ~ 9 (極良)
出穂始日	5月31日	6月5日	月日
越夏性	3.9	3.6	1 (極不良) ~ 9 (極良)
草丈 (1番草)	112	90	cm
草丈 (2番草)	75	60	cm
草丈 (3番草)	49	35	cm
草丈 (4番草)	56	40	cm
秋の草勢	8.3	6.5	1 (極不良) ~ 9 (極良)
秋の被度	57.1	62.5	%

- (注) 1 発芽の良否及び定着時草勢は平成21年秋の調査。
2 1以外の形質は平成22年～平成24年の3か年平均。

表2 「那系1号」の年次別乾物収量 (平成21～24年 青森畜産研)

品種名	利用1年目 (H22年) (kg/10a)	利用2年目 (H23年) (kg/10a)	利用3年目 (H24年) (kg/10a)	3か年平均 (kg/10a)
那系1号	1,505(108) [100]	1,273(110) [85]	1,132(118) [75]	1,303(111)
バーフェスト (標準品種)	1,389(100) [100]	1,157(100) [83]	959(100) [69]	1,168(100)

- (注) () は標準品種を100とした指数。[] は利用1年目を100とした指数。

耕種概要

- 試験場所 畜産研究所内圃場
- 播種期、播種量 平成21年9月11日播種
那系1号 3.3kg/10a (発芽率で補正)
バーフェスト (標準) 3.0kg/10a
- 施肥量 (10a 当たり) 土壌改良資材: 炭カル pH6.5 矯正量、20% 尿素 125kg
基肥: N-P₂O₅-K₂O=5-5-5kg
追肥: (平成22年) N-P₂O₅-K₂O=15-10-10kg
(平成23、24年) N-P₂O₅-K₂O=20-15-15kg
- 刈取期 1番草: 標準品種の出穂期
再生草: 標準品種の草丈が約70～80cmに達した時点で同時刈り